

# れきはく NEWS

vol.39  
2017.FEB

島根県立古代出雲歴史博物館の  
旬な話題や情報をお届けします

# 開館10周年。

まもなく  
おかげ  
さまで



## CONTENTS

- 2 開館10周年特集
- 6 特集「出雲国風土記 一語り継がれる古代の出雲」
- 8 平成29年度展覧会のご紹介
- 9 展覧会通信
- 10 れきはく通信
- 11 古代文化センター通信
- 12 れきはくごよみ



# 開館10周年を迎えます

## 古代出雲歴史博物館は

この春、

これまで歴博を支えていただいた皆さまへ感謝の気持ちをこめて、今年は記念の  
 展覧会や様々なイベントを開催します。今回の歴博ニュースは10周年記念特大号  
 として、過去10年間の出来事を振り返るとともに、今年の記念企画についてご紹介  
 します。

### データで見る 展覧会

古代出雲歴史博物館では、平成19年3月10日に開幕した開館記念特別展「神々の至宝」を皮切りに、平成29年1月29日に閉幕した常設展・期間限定展示「めでたい！」まで、50回の展覧会を開催しました。10年間の展覧会を彩った特色ある展示品を振り返ってみましょう。

## 1. 国宝・重要文化財

有形文化財のうち、重要なものは重要文化財に、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いものは国宝に指定されています。  
 ※平成29年2月1日現在、建造物を除いて10,654件  
 展覧会では国宝・重要文化財も多数展示しましたが、全指定件数でみるとまだごく一部です。これからも島根県をはじめ全国の貴重な文化財を展示していきます。

● 国宝・重要文化財展示数が多かった展示  
 〈開館記念特別展「神々の至宝」〉  
 国 宝：6件 (633点)  
 重要文化財：13件 (19点) **計19件**  
 (652点)

〈特別展「出雲大社展」〉  
 国 宝：5件  
 重要文化財：24件 **計29件**

〈特別展「近江巡礼」〉  
 国 宝：2件  
 重要文化財：28件 **計30件**

● 展覧会で展示した国宝・重要文化財の数  
 国 宝：30件  
 重要文化財：189件 **計219件**  
 (全指定件数の2.1%)

## 2. 最も展示資料が多かった展示

● 企画展「輝く出雲ブランド」  
 玉関係資料総点数 **約15,000点**  
 ※うち国宝2件(73点)、重要文化財11件(608点)

古くから全国的に有名な「出雲の玉作り」を、全国から集めた圧倒的な数の玉関係資料で解説しました。国宝・重要文化財も多数展示しました。



### \*過去10年間の特別展・企画展一覧

年度	特別展・企画展など	開催期間	日数	年度	特別展・企画展など	開催期間	日数
平成18年度	開館記念特別展「神々の至宝」	3/10~5/20	71	平成24年度	特別展「石見銀山 その繁栄と文化の継承」	6/1~7/8	37
	特集展「並河万里写真展」	6/1~7/1	30		特別展「水木しげると出雲」	7/21~10/8	78
平成19年度	世界遺産登録記念特別展「輝きふたたび 石見銀山展」	7/14~9/24	70		写真展「八雲立つ出雲」	10/26~12/24	58
	企画展「弥生王墓誕生」	10/12~12/16	64	企画展「戦国大名 尼子氏の興亡」	1/18~3/17	58	
	特集展「出雲地方の正月行事」	12/25~1/14	21	企画展「匠の技」	4/12~6/16	64	
	特集展「新発見! とっとり・しまね発掘速報展」	1/18~2/18	32	企画展「出雲大社展」	7/12~9/8	57	
	企画展「よみがえる幻の染色」	3/7~5/18	71	企画展「入江神楽」	9/19~24	6	
平成20年度	特集展「石州銀展」、「加茂岩倉銅鐸の世界展」、「早川和子原画展」	5/31~7/6	36	平成25年度	企画展「寧夏岩画展」	10/4~12/1	57
	特別展「聖地★巡礼」	7/26~9/15	51	企画展「山陰の黎明」	12/27~2/23	57	
	企画展「秘仏への旅」	10/4~11/30	56	特別展「近江巡礼」	3/28~5/11	44	
	特集展「発掘! 斐伊川3千年の流れ」	12/20~2/15	57	特別展「板織の世界」	6/6~7/6	30	
平成21年度	企画展「輝く出雲ブランド」	3/7~5/17	71	平成26年度	企画展「倭の五王と出雲の豪族」	7/25~9/15	52
	特別展「並河万里写真展」	5/29~7/5	37	企画展「出雲国 浮浪山鰐淵寺」	10/10~11/24	44	
	特別展「どすこい」	7/17~9/23	66	特集展「尾道松江線発掘物語」	12/26~2/22	57	
	企画展「出雲国誕生と奈良の都」	10/9~12/13	64	企画展「入り海の記憶」	3/27~5/17	52	
	特集展「蔵徳神を招く」	12/22~1/17	27	特別展「じっくり味わう絵巻」	6/6~7/5	29	
平成22年度	企画展「島根の神楽」	2/5~4/4	57	平成27年度	特別展「琉球王国」	7/22~8/31	40
	特別展「BATADEN」	4/23~7/4	71	企画展「百八十神坐す出雲」	10/9~11/29	50	
	特別展「茶の湯のものづくりと世界のわざ」	7/23~9/20	59	特集展「出雲に米作りが伝わった!」	12/18~2/14	57	
	企画展「神々のすがた」	10/8~11/28	50	特別展「遷宮」	3/25~5/18	54	
平成23年度	特集展「出雲平野の弥生時代」	12/17~2/14	58	平成28年度	企画展「いわみもの」	7/22~9/25	64
	企画展「古代出雲の壮大なる交流」	3/4~5/16	72	特別展「日本のわざと美」展	10/14~11/20	35	
	特集展「音曲の神様」	5/29~7/3	35	常設展期間限定展示「めでたい!」	12/23~1/29	37	
	特別展「観音巡礼」	7/22~9/25	64	開館10周年記念企画展「出雲国風土記」	3/25~5/16	52	
	企画展「たたら製鉄と近代の幕開け」	10/7~12/18	73				
	特集展「備前焼」	12/28~2/26	59				
	企画展「弥生青銅器に魅せられた人々」	3/13~5/16	62				

※「出雲国風土記」展は各種データ内の数値適用外となっています。  
 ※「出雲国風土記」展の日数は平成29年度分も含んでいます。

### 3. 大きい展示資料

展示された資料の中には展示ケースに収まらないような大きな資料もたくさんありました。そのうち、特に規模の大きなもの、長いものなど紹介します。

- 重要文化財：木造業師如来坐像(岡山県餘慶寺)

高さ**1.82m**

特別展「観音巡礼」展示／坐像で高さ1.8m以上あるだけでなく、体や腕など全てがポリウムたっぷりです。

- 平城宮朱雀門復元模型(奈良文化財研究所)

**3.2×3.0×6.1m**

企画展「出雲国誕生と奈良の都」展示／平城宮朱雀門の1/10の模型で、総重量は推定で800kgです。トラック2台で運搬しました。

- いぐり凧

(西ノ島ふるさと館)

**3.6×3.0m**

企画展「隅岐之國」展示／直接目にする機会の少ない巨大な凧で、間近に見た方からは驚きの声が上がりました。

- 提灯蛇胴

**17m**

企画展「石見神楽」・企画展「いわみもの」展示／単独では最長で、「いわみもの」では天井から吊り下げて展示しました。



この10年間に開催した展覧会について振り返ってみましょう。紙面も限られるのでここでは当館としてユニークな展覧会をご紹介します。

まずは「よみがえる幻の染色」。机上の研究だけでなく、実験を繰り返し、廃れてしまった「出雲藍板締め」の技法を解き明かし、その研究成果に基づいた意欲的な展覧会でした。県内外の染色ファンに人気がありました。一畑電車の展覧会「BATADEN」。決して鉄ちゃんだけの展覧会ではなく、かつて沿線にあった遊園地「一畑パーク」にまつわる展示も好評でした。島根県民の「懐かしい!」というツボにはまって、何度も来館される方が続出しました。漫画の原画を展示した「水木しげると出雲」。いうまでもなく漫画家水木しげる氏の展覧会。水木氏の漫画にも登場した学芸員が担当しました。鳥取県出身の水木氏がいかに出雲を幼いときから神々の住む特別な所として意識していたかが分かる展示でした。渋いところで「入り海の記憶」。宍道湖・中海は『出雲国風土記』に「入り海」として登場します。かつて「入り海」は交通の要所として欠かせないものでした。その「入り海」を様々な観点から紹介しました。県外の文化財を紹介したのが「琉球王国」。沖縄県と那覇市の全面的な協力を得て、沖縄県でも滅多に開催されない琉球王国時代の名品をまとめた展覧会。国宝26点、重要文化財3点を含む、計125点の展示は見ごたえ十分。同様に「近江巡礼」では滋賀県の仏教美術をまとめて展示しました。当館は館名に古代出雲とありますが、その名前にこだわらず、国内外の名品を展示しています。

いうまでもなく展覧会は面白さを要求されますが、同時に学術的な裏付けも必要です。担当学芸員はその両方を目指して何年も骨身を削って準備します。今後も楽しく、ハイレベルな展覧会を開催しますのでご期待ください。

※紹介できなかった展覧会については、当館ホームページの「過去の企画展」をご覧ください。詳しく紹介しています。

### 4. 最も遠くから借用した展示資料

東方見聞録 ほか(ポルトガル国立図書館)

銀製蝸 燭立 一対 ほか

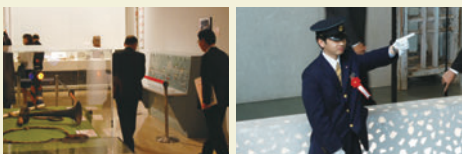
(ポルトガル国立古美術館)

特別展「輝きふたたび 石見銀山展」で展示するため、古代出雲歴史博物館から直線距離でおよそ10,900km離れたポルトガルのリスボンから借用しました。

### 5. こんな展示もしました

- 吊革・ラッパ(警音器)・タブレットなど(さとがた保育園)

特別展「BATADEN」展示／一畑電気鉄道株式会社創立100年の年に開催した特別展では、一畑電車にゆかりの様々な資料を展示しました。また、オープニングセレモニーには、公開直前の映画「RAILWAYS」関係者も参加し、一畑電車運転手さんの「出発進行!」の声を合図にテープカットが行われました。



- 古志本郷遺跡土器出土状況  
特集展「出雲平野の弥生時代」展示／近年の弥



生時代の遺跡の発掘調査成果を紹介した展示では、古志本郷遺跡で土器が大量に出土した様子を、長さ13m幅6mの範囲で復元しました。

- 青銅器製作実験資料

企画展「弥生青銅器に魅せられた人々」展示／弥生時代の青銅器を復元するため、学芸員と研究員がコンビを組んで鑄造実験を行い、苦勞の末、完成した銅剣や実験で使用した鑄型、道具などを展示しました。



- 企画展テーマ曲

平成23年春から24年春に開催した3つの企画展にはテーマソングがありました。この3作を収録したCD『ゆにわ』も販売されています。

■クロスロード(平成23年企画展「古代出雲の壮大なる交流」テーマ曲)

■たたらうた(平成23年企画展「たたら製鉄と近代化の幕開け」テーマ曲)

■むすびていはふ(平成24年企画展「弥生青銅器に魅せられた人々」テーマ曲)



### 雲太くんの歴博探訪

こんにちは、ぼく雲太くん。今日は月に一回の休館日。「お休みだから誰もいないかも」と思ったら…みんな忙しそうにしているよ!お休みの日にしかできないことがた〜くんあるみたい。展示替えやワックスがけ、空調や消火などの設備点検、アテンドさんたちはいろんなところに出かけて勉強してるんだって。今日は誰も遊んでくれなくて、ぼくつまんな〜い(;▽;)



### 1 宇豆柱

中央ロビー



柱にあいているこの穴は何かご存知ですか？実は、柱を運ぶ時に綱を通して引っぱるためのものなんです。大きな柱を運ぶための昔の人の苦勞がうかがえますね。



## アテンダントおすすめ 必見!! 展示品

歴博には多くの展示物がありますが、隠れた見どころもたくさんあります。そんな必見のポイントを私たちが紹介します！

### 2 古代の出雲大社10分の1模型

常設展  
テーマ別展示室「出雲大社と神々の国のまつり」

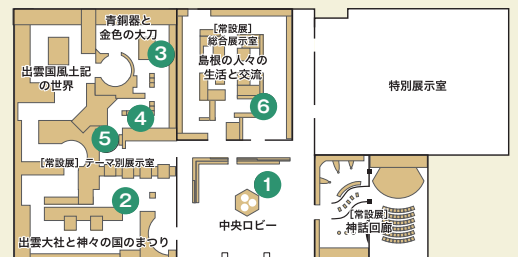


模型の横にあるスピーカー。そこを耳をすましてみると聞こえてきたのは…？

### 3 青銅器王国の仲間たち

常設展  
テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」

鳥根県では、荒神谷や加茂岩倉遺跡以外からも青銅器が出土しています。この2遺跡以外で県内から見つかった青銅器がずらっと並んでいるのがこちら。銅剣6本と銅鐸2個が同時に出土した志谷奥遺跡の青銅器など、こちらも要チェック！



### 4 三角縁神獣鏡の復元品

常設展  
テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」



古代の鏡ってどれくらい映るのか気になったことはありませんか？その疑問を解決してくれるのがこの展示品。ぜひ一度見てください。

### 5 かわらけ谷墳墓群出土の大刀

常設展  
テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」



このピッカピカの大刀！古墳時代に作られたものなんて信じられません！古墳時代の輝きを失わず、さらに鞘木・柄木まで残っているとはまさに奇跡ですね。

### 6 三瓶小豆原埋没林輪切り標本

常設展  
総合展示室



「本当に3600年前の木ですか？」と言いたくなるほど、なめらかな木肌のスギ。重さは88.8kg。実に縁起のいい重さです。



## 出雲ちゃんの歴博探訪

こんにちは、わたし出雲ちゃん。みんな、歴博ではどんな人が働いているか知ってる？

学芸員さんやアテンダントさん以外にも実はたくさんの方がいるのよ。



皆さんに展示のご案内をしているボランティアガイドさんは93名もいて、毎日ガイドをしてくれているんだよ。今度出会ったら、ぜひお話してみてね！

玄関や受付に生けてあるお花も、季節や展覧会に合わせて、ボランティアさんが替えてくれるよ。いつもキレイなお花がありがとう！

建物のメンテナンスをする設備さんや清掃さん、警備さんなど、毎日いろんな人たちが協力して博物館を運営しているよ。

そして、歴博は展示だけじゃないの。かわいいミュージアムグッズがあるショップや眺めのいいカフェもあって、お客様に楽しく、快適に過ごしてもらえるようスタッフが準備しているよ。見どころ満載の歴博をこれからも楽しんでね。

# 10周年 関連企画 のご紹介

開館10周年にあわせ、  
記念のロゴマークやパスポートをつくりました。

## 10周年ロゴマークを制作

10周年の「10」を、当館の代表的な展示物の銅剣と銅鏡（三角縁神獣鏡）をモチーフに制作しました。

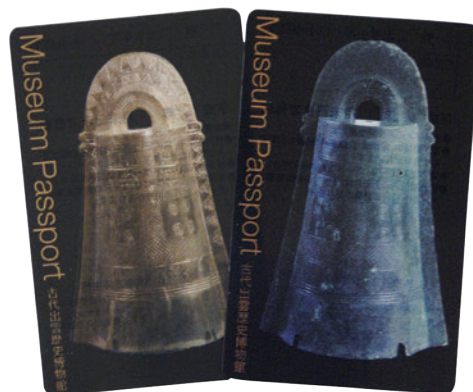
当館のオリジナリティをシンボリックに表現しています。銅鏡の特徴的なクラックがアクセントになって、親しみやすいデザインに仕上がりました。フレーズのちがうマークが3種類あり、今後はポスターやチラシなどに掲載していきます。



## 記念パスポート [数量限定]

銅鐸をモチーフに2種類の記念パスポートを製作しました。銅鐸が立体的に見える3Dバージョンと、金色と青緑色の変化が楽しめるチェンジングバージョンの2種類があり、3月10日より販売を開始します。

現在パスポートをお持ちの方も、更新の際にどちらかお選びいただけます。この機会に是非どうぞ。



〈チェンジングバージョン〉 〈3Dバージョン〉

1枚  
1,500円

パスポートは入会から1年の間、全ての展示をご覧いただけ、更に同伴者割引など様々な特典があります。

※限定パスポートは在庫が無くなり次第終了となります。

この他にも様々なイベントを開催していきます。詳しくはホームページで随時発表します。お楽しみに！

## 館長あいさつ

古代出雲歴史博物館 館長  
栗原 昌子

おかげさまで、この3月に歴博は開館10周年を迎えます。これまで、当館の活動を支えてくださったすべての皆様に心から厚く御礼申し上げます。

顧みますと、「島根の特色ある歴史文化を積極的に活用し、郷土への誇りと愛着を持った人づくり、歴史と文化を生かした地域づくりを進めるための拠点施設、まさに島根の存在意義（レーゾンデートル）」として誕生したのが、この古代出雲歴史博物館であります。

多様化、複雑化していく現代社会にあって、私たちの使命はますます重要性を増してきています。これからも、志を高くもって活動してまいる所存ですので、今後ともよろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





開館10周年記念企画展

# 出雲国風土記

語り継がれる古代の出雲

【特集】

開館10周年記念企画展

- ◎会 期／平成29年3月25日(土)～5月16日(火) [52日間]
- ◎休 館 日／4月18日(火)
- ◎会 場／古代出雲歴史博物館 特別展示室
- ◎開館時間／9:00～18:00 ※3月25日(土)は企画展開会式のため、特別展示室のみ10:00開場となります。
- ◎主 催／島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

## プロローグ 「出雲国風土記」の文字の世界 —17000の文字が語る古代の出雲—

古代出雲の世界を、約17,000にもおよぶ文字で記した『出雲国風土記』。その『出雲国風土記』を、天平5(733)年当時の卷子仕立てに推定復元し、豊かな文字情報をもつ『出雲国風土記』の文字の世界について紹介します。

## 第1章 「出雲国風土記」誕生

奈良時代には『古事記』『日本書紀』といった歴史書が中央で編纂され、ついで国勢を知るために情報を収集し、各国で「風土記」が編纂されました。「風土記」、特に『出雲国風土記』が完成するまでの過程を紹介します。

〈主な展示品〉

- 出雲国風土記(細川家本)  
[公益財団法人永青文庫蔵／熊本大学附属図書館寄託]
- 【島根県指定文化財】出雲国風土記(日御碕神社本)[日御碕神社蔵]



【島根県指定文化財】出雲国風土記(日御碕神社本)  
日御碕神社蔵

## トピック 伝えられた各国の「風土記」

現存する「風土記」は、『出雲国風土記』のほか、常陸・播磨・豊後・肥前のみですが、他書に引用され、逸文として現在に伝えられている「風土記」もあります。『出雲国風土記』以外の四「風土記」と逸文として現在に伝えられている各国の「風土記」を紹介します。

- 〈主な展示品〉
- 常陸国風土記(菅友政本)[茨城県立歴史館蔵]
  - 豊後国風土記(蓬左文庫本)[名古屋市蓬左文庫蔵]

## 第2章 「風土記」時代の神・仏

『出雲国風土記』には、約400の神社や、地域の有力者によって建造された寺院など、神・仏についての記述が多くみえ、当時、出雲において神や仏が広く受容されていたことがうかがえます。『出雲国風土記』編纂前後の時期にあたる飛鳥時代から奈良・平安時代にかけての文化財を展示し、当時の出雲における神・仏のあり方を概観します。

〈主な展示品〉

- 【重要文化財】銅造観音菩薩立像 [鰐淵寺蔵]
- 【重要文化財】紙本着色絵因果経断簡 卷第二上(六十二行)  
[奈良国立博物館蔵] ※3月25日～4月14日のみ展示
- 光明皇后発願出曜経 卷第四(断簡)[大阪大学総合学術博物館蔵]
- 【重要文化財】木造十一面観音菩薩立像(古保利薬師堂伝来)  
[北広島町教育委員会蔵]



【重要文化財】銅造観音菩薩立像  
鰐淵寺蔵

## 第3章 引き縫える国、出雲 —国引き神話—

『出雲国風土記』独自の神話である国引き神話は、日本海を通じた出雲と他地域との交流をうかがわせます。国引き神話をプロジェクションマッピングで視覚的に表現するとともに、交流をうかがわせる文化財を展示し、その様子について紹介します。

- 〈主な展示品〉
- 【重要文化財】硬玉勾玉・銅戈 [出雲大社蔵]
  - 【重要文化財】隠岐国駆鈴・銅印 [個人蔵]

## 第4章 都から出雲へ、出雲から都へ —国司が暮らした国府と都を支えた出雲びと—

「風土記」の時代、ヒト・モノ、さらに情報は、都鄙間を行き来していました。例えば、都からは国司として貴族が赴任し、国府で政務を行い、地方からは税としてモノが運ばれるのみならず、都近辺に移住し、「宮仕え」をした者もいました。出雲国府に暮らした貴族や「宮仕え」をした出雲びとを紹介します。

### 〈主な展示品〉

- 【重要文化財】灌頂随願往生経（石川年足願経）  
[奈良国立博物館蔵]
- 【国宝】金銅石川年足墓誌 [個人蔵/大阪歴史博物館寄託]
- 【重要文化財】天平四年山背国愛宕郡計帳断簡  
[静岡県立美術館蔵]



〔国宝〕金銅石川年足墓誌  
個人蔵（大阪歴史博物館寄託）  
写真提供：大阪歴史博物館

## 第5章 「風土記」時代の暮らし

『出雲国風土記』は、古代出雲の「ガイドブック」、「国勢調査報告書」であり、当時の出雲の様相を知るには格好の材料です。「風土記」の記述から、饗宴や温泉、生産、動物などの切り口で、古代出雲の世界を紹介します。

### 〈主な展示品〉

- 埴輪 踊る人物  
[東京国立博物館蔵]
- 【重要文化財】斎宮跡出土大型赤彩土馬  
[斎宮歴史博物館蔵]
- 【成田市指定文化財】南羽鳥正福寺1号墳出土ムササビ形埴輪 [成田市教育委員会蔵]



埴輪 踊る人物/東京国立博物館蔵  
Image: TNM Image Archives

## 第6章 文学としての「風土記」、 解釈される「風土記」

『万葉集』研究の参考に資する史料を集めた『万葉緯』の巻十五が『出雲国風土記』であることからもうかがえるように、「風土記」は文学面にも大きな影響を与えました。また、「風土記」に記された場所の比定などについて、古くより研究がなされ、多くの解説書が著されました。文学として受容された「風土記」、そして、現在もなお、研究され、さまざまに解釈される「風土記」を紹介します。

### 〈主な展示品〉

- 万葉緯 巻十五 [山口県立山口図書館蔵] ※3月25日～4月17日のみ展示
- 出雲国風土記郡郷図 [本居宣長記念館蔵]
- 尾張国解文 [東京大学史料編纂所蔵] ※4月19日～5月16日のみ展示



【成田市指定文化財】ムササビ形埴輪  
成田市教育委員会蔵  
写真提供：成田市教育委員会

## エピソード 現在に語られる古代の出雲

『出雲国風土記』の内容は、時代によってさまざまに解釈し直されながら、現在も語り伝えられています。その語り伝えられている古代の出雲を紹介します。

## ロビー展示 今にのこる「風土記」の風景

『出雲国風土記』に記された場所の比定地を、今にのこる「風土記」の風景として写真パネルで紹介합니다。

## こちらもおすすめ! 企画展関連行事

三館連携シンポジウム  
(奈良県立万葉文化館・三重県立斎宮歴史博物館・島根県立古代出雲歴史博物館)  
「語り継がれる神話、  
読み継がれる風土記」

- 日時/平成29年4月23日(日) 13:30～
- 会場/大社文化プレイスうらら館 だんだんホール
- 講師/佐藤 信氏  
(東京大学/島根県特別顧問  
(古代歴史文化担当))
- 報告/井上さやか氏  
(奈良県立万葉文化館)  
榎村 寛之氏  
(三重県立斎宮歴史博物館)  
平石 充氏  
(島根県立古代出雲歴史博物館  
/島根県古代文化センター)
- パネルディスカッション  
佐藤氏(司会)・井上氏・榎村氏・平石氏  
※はがき・ファックス・ホームページのイベント参加  
フォームのいずれかで事前にお申し込みください。

### 記念講演

- 日時/平成29年3月26日(日) 13:30～
- 会場/古代出雲歴史博物館 講義室
- 演題/『出雲国風土記』へのきぎはし
- 講師/関 和彦氏  
(日本地名研究所所長/元島根県  
古代文化センター客員研究員)
- ※電話・ファックス・ホームページのイベント参加  
フォームのいずれかで事前にお申し込みください。

### リレー講座

- 平成29年4月2日(日)  
演題:『出雲国風土記 写本の世界』  
講師:野々村安浩(古代文化センター)
  - 平成29年4月9日(日)  
演題:「風土記」登場地をあるく  
講師:井谷 朋子(古代文化センター)
  - 平成29年4月16日(日)  
演題:「風土記」の神・社  
講師:松尾 充晶(古代出雲歴史博物館)
  - 平成29年4月29日(土)  
演題:出雲の氏族とその地域性  
講師:佐藤 雄一(古代文化センター)
  - 平成29年5月7日(日)  
演題:「風土記」時代の「公務員」  
講師:吉永 壮志(古代出雲歴史博物館)
  - 平成29年5月14日(日)  
演題:地中から姿をあらわした「風土記」  
講師:吉松 大志(古代文化センター)
- ※いずれも、会場は古代出雲歴史博物館講義室で、  
14:00～15:00  
※電話・ファックス・ホームページのイベント参加  
フォームのいずれかで事前にお申し込みください。

### ギャラリートーク

- 平成29年4月2日(日)  
担当:吉松 大志(古代文化センター)
  - 平成29年4月9日(日)  
担当:間野 大丞(古代出雲歴史博物館)
  - 平成29年4月16日(日)  
担当:佐藤 雄一(古代文化センター)
  - 平成29年4月29日(土)  
担当:平石 充(古代文化センター)
  - 平成29年5月7日(日)  
担当:吉永 壮志(古代出雲歴史博物館)
  - 平成29年5月14日(日)  
担当:松尾 充晶(古代出雲歴史博物館)
- ※いずれも、会場は古代出雲歴史博物館特別展示  
室で、11:00～12:00  
※企画展観覧料もしくはバスポートが必要です。

学芸員と行く「出雲国風土記」  
かけめぐりツアーも開催!  
●詳細は後日、ホームページ等で発表します。

平成29年度に当館で開催する予定の展覧会について紹介します。春季（3月～5月）に開催する展覧会が、企画展「出雲国風土記—語り継がれる古代の出雲—」です。奈良時代に全国各地でつくられたはずの「風土記」ですが、完全な形で現在まで伝えられた「風土記」は「出雲国風土記」だけです。「出雲国風土記」は17,000文字で古代出雲の世界をダイナミックに表しています。鳥根県では、古代文化センターを中心に長年その「出雲国風土記」の調査研究を行っており、その成果を講演会や印刷物で皆様にお伝えしてきましたが、今回初めて展示という形で公開いたします。

本展では、「風土記」の展示はもちろんですが、国宝・重要文化財を含む考古・歴史・美術など様々な文化財を展示し、「風土記」の歴史や意味などを分かりやすく理解して頂きます。特に「出雲国風土記」の中でも有名な国引き神話は、プロジェクションマッピングも利用して視覚的に表現します。会期中にはシンポジウムや講演会・ギャラリートークなど関連行事も目白押しです。当館は本年3月に開館10周年を迎えますが、本展はその開館10周年を記念した展覧会の第1弾です。

夏季（7月～9月）には、特別展「世界遺産登録10周年記念 石見銀山展—銀が世界を変えた—」を開催します。「石見銀山」が原動力となってひとつになった「世界」と、それによって生じた国内外の社会や文化における変化、および科学技術の発展の過程と、それによってもたらされた結果について、考古・歴史・美術など様々な作品を通して紹介します。同じく世界遺産に登録されているポリビアのポトシ銀山の、国内初公開となる銀器や絵画資料なども紹介します。本展は、当館の開館10周年を記念した第2弾目の展覧会です。

秋季（10月～12月）には、特別展「鳥根の仏像—平安時代のほとけ・人・祈り—」（仮称）を開催します。鳥根県にはすぐれた仏像が数多く残されています。今回は特に個性的な仏像が多く作られた平安時代にスポットを当てて、仏像の魅力を通じて、仏像に込められた意味を考え、それをめぐる人々の営みに迫ります。

冬季（12月～1月）には、常設展・期間限定展示「出雲の神楽をささえる—林木屋神楽資料—」（仮称）を開催します。出雲には出雲神楽で使う面の貸し出し業が存在しました。その個人の方から預かっている神楽面を当館では現在、調査研究中です。本展では、その成果を展示します。

最後になりましたが、29年度末（30年3月）に始まる展覧会も紹介します。企画展「隠岐の黒曜石」（仮称）です。有史以前より我々人類を魅了してきた黒曜石。本展では、隠岐産黒曜石を中心に、先史時代から現代までの黒曜石文化を紹介します。

それぞれの展覧会は、会期が近づきましたら本誌で詳しく紹介します。29年度もお客様に満足していただける展覧会を揃えて皆様をお待ちしています。

## 古代出雲歴史博物館 展覧会スケジュール 2017-18

### 開館10周年記念展 第1弾

#### ■ 企画展

## 出雲国風土記

—語り継がれる古代の出雲—

2017年3月25日(土)～5月16日(火)  
※会期中の休館日/4月18日



出雲国風土記写本(日御崎神社本)  
日御崎神社蔵

和銅6(713)年、律令国家により、特産物や土地の様子、地名の由来、伝承などを記録し、報告するよう命じられ、その20年後に完成した「出雲国風土記」は、「ほぼ完本」というべき形で現存する、唯一の「風土記」です。本展では、その「出雲国風土記」からうかがえる古代の出雲について、考古・歴史・美術などの豊富な文化財をもとに考えます。文字資料に恵まれない古代にあって、「出雲国風土記」が記され、現在まで伝わった、その意味や価値について、再確認する機会になれば幸いです。

### 開館10周年記念展 第2弾

#### ■ 特別展

## 石見銀山展

—銀が世界を変えた—

2017年7月14日(金)～9月3日(日)  
※会期中の休館日/7月18日・8月8日

世界遺産登録10周年記念の展覧会です。大航海時代の国内外の文化財から、石見銀山が世界の一体化や日本の文化に与えた影響について紹介します。



重要文化財 南蛮屏風  
南蛮文化館蔵

#### ■ 特別展

## 鳥根の仏像(仮)

—平安時代のほとけ・人・祈り—

2017年10月20日(金)～12月4日(月)  
※会期中の休館日/11月21日

鳥根の仏像の個性や魅力を紹介します。さらにそれらを通して、仏像に込められた意味を考え、仏像をめぐる人々の営みに迫ります。



十一面観音菩薩坐像  
長安寺蔵 金成地区観音堂伝来

#### ■ 常設展・期間限定展示

## 出雲の神楽をささえる(仮)

—林木屋神楽資料—

2017年12月22日(金)～2018年1月28日(日)  
※会期中の休館日/1月16日



#### ■ 企画展

## 隠岐の黒曜石(仮)

2018年3月23日(金)～2018年5月16日(水) ※会期中の休館日/4月17日



開館10周年記念 第2弾 ● 世界遺産登録10周年記念

# 特別展 石見銀山展

— 銀が世界を変えた —

◎開催期間／平成29年7月14日(金)～9月3日(日)

■会期中の休館日／〈古代出雲歴史博物館〉7月18日(火)、8月8日(火) 〈石見銀山資料館〉無休

◎会場／古代出雲歴史博物館・石見銀山資料館《2館同時開催》



古代出雲歴史博物館  
にて展示

▲南蛮屏風  
(重要文化財・南蛮文化館蔵)  
南蛮人との交易の様子が描かれた作品

古代出雲歴史博物館  
にて展示

辻が花染丁子文道服▶  
(重要文化財・大田市清水寺蔵・京都国立博物館寄託)  
徳川家康より拝領した石見銀山ゆかりの道服



石見銀山資料館  
にて展示

▲鉱山模型  
(個人蔵)  
採掘状況を立体的に示す稀有な作品



石見銀山資料館  
にて展示

▲南蛮甲冑(松浦史料博物館蔵)  
オランダの甲冑を日本風に作り直した南蛮鎧

平成29年7月、世界遺産「石見銀山とその文化的景観」は登録から10年の節目を迎えます。これを記念して、石見銀山の文化的価値を紹介する展覧会を、同年7月14日(金)から9月3日(日)まで、古代出雲歴史博物館と石見銀山資料館(大田市)の2館で開催します。

古代出雲歴史博物館では、石見銀山から産出された銀が世界経済圏の成立や日本の社会・文化に与えた影響について紹介します。日本国内初公開となる南米ボリビアの世界遺産ポトシ銀山の銀製品や絵画をはじめ、大航海時代の国内外の作品を中心に展示

します。また、石見銀山の開発に成功し莫大な銀を上納した山師・安原伝兵衛が徳川家康より拝領した辻が花染丁子文道服(重要文化財)も10年ぶりの里帰り展示となります。

石見銀山資料館では、石見銀山の発見を契機に日本が世界有数の鉱業国となった姿を、鉱山絵巻や模型などをもとに紹介します。また、銀貿易により構築された海外とのネットワークを通じてもたらされた文物が、江戸時代の日本の産業や文化、学問に与えた影響についても紹介します。このうち舶来品では、平戸藩主松浦家に伝わる南蛮甲冑やオランダ焼など、本邦初公開を含む異国情緒あふれる作品などを展示します。

今年の夏に両館と現地をめぐっていただくことで、世界遺産「石見銀山」の魅力を再認識していただくよい機会になればと考えています。

# 進んでいます、 出雲農林高校との連携。

古代出雲歴史博物館は、歴史と文化を活かした地域づくり、郷土への誇りと愛着をもった人づくりを目標としています。昨年度からは、その一環として出雲農林高校と様々な連携事業を進めてきました。連携2年目となる今年は、「歴博まつり」への移動動物園、出農ショップ、太鼓部の参加に加えて、出雲農林高校のふるさと教育や、歴博体験水田での田植え・稲刈りなど、さらに交流の幅を広げています。

ふるさと教育では、出雲農林高校の全学年を対象に、島根の歴史・文化に触れる機会を作りました。全国から注目を浴びる出雲の青銅器文化は、弥生時代の到来によって花開いた文化です。1年生は、博物館で「稲作のはじまりと弥生時代の出雲」の話聞いた後、荒神谷遺跡の銅剣や加茂岩倉遺跡の銅鐸などを間近に見学しました。2年生は、ふるさと出雲の豊かな文化を理解するため、「出雲大社と出雲神話、出雲国風土記」について学びました。進路決定を目前にした3年生には、「面接に役立つ島根の歴史と文化の話」をしました。面接の際にふるさとの歴史文化の魅力を問われたらどのように答えたら良いか、演習を交えて学びました。

歴博の体験水田では、開館以来、希望者や幼稚園児などによって、毎年古代米（赤米）を栽培してきました。今年は初めての試みとして、出雲農林高校植物科学科3年生の皆さんに昔ながらの手作業による田植えと稲刈りを体験してもらいました。農業の機械化が進む中、手作業による田植えや稲刈り、ハデ干しは、農業を専門とする生徒達にとっても貴重な体験になったのではないかと思います。また、稲刈りの際には、昨年収穫した赤米を土器で炊いて試食もしてみました。古代の味を高校生はどのように感じたのでしょうか？

夏と秋に行われる「歴博まつり」での移動動物園、出農ショップ、太鼓部の公演は、「歴博まつり」の定番になってきました。かわいい動物たちとのふれあいや、実習で作られた食品の販売、迫力ある太鼓部の公演には毎回多くの方にお越し頂いています。普段なかなか博物館には来られることのない方も出雲農林高校の参加をきっかけにお見えになっています。古代出雲歴史博物館は、出雲農林高校をはじめとした地域の学校や皆様方との交流を通して、より親しみやすい博物館を目指して活動を続けていきます。



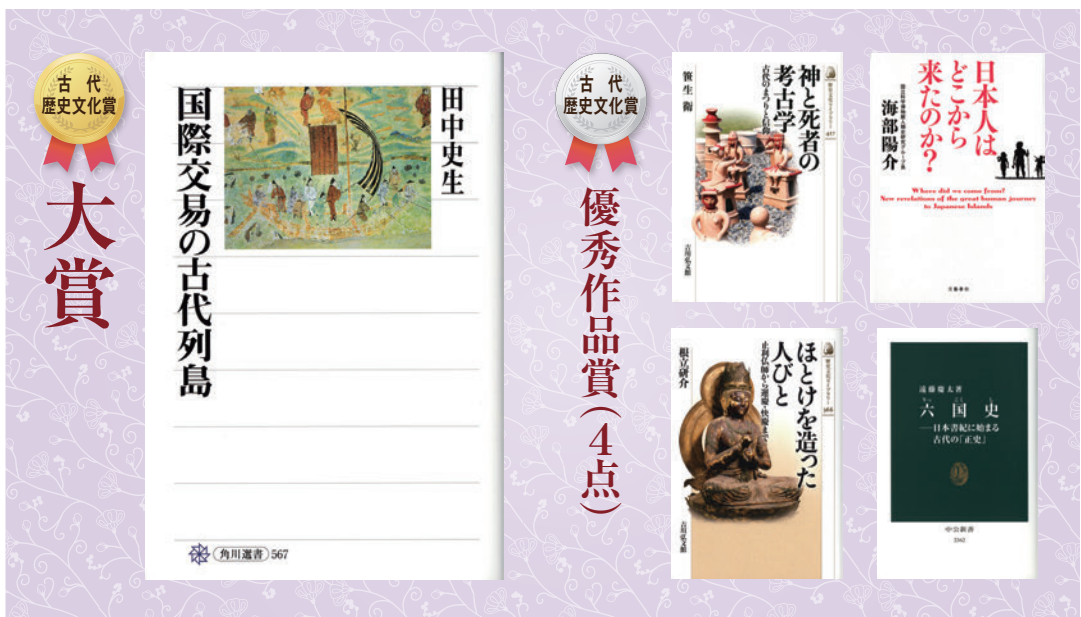
- ① みんなで古代米のハデ干し
- ② 稲刈りの一コマ
- ③ 苦勞した縄ない作業
- ④ これはおいしい？古代米の試食
- ⑤ 移動動物園に集まる子供たち
- ⑥ 秋晴れの下、太鼓部公演

## 第4回古代歴史文化賞の決定

この賞は、鳥根県を初めとする古代歴史文化にゆかりの深い奈良、三重、和歌山、宮崎の5県共同で、古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰するものです。第4回目となる今年は、11月1日に東京帝国ホテルで賞の選定委員会が開かれ、大賞1作品、優秀作品賞4作品が選ばれました。

大賞は田中史生氏の『国際交易の古代列島』(KADOKAWA)です。この本は国家間の外交史として語られがちな古代の国際交流について、時代毎の交易のあり方や交易に携わる人々、交易者に注目し、特に9世紀以降の海商とも呼ぶべき商人や僧侶などによる交易の実態を生き生きと描き出しました。本書の内容は、グローバルな現代社会において、人々が自分たちの国家のみならず、ほかの国家や社会と接する上で考えさせられるものであり、この点が高く評価されました。

優秀作品賞には、日本の古代祭祀を遺跡の発掘調査の成果を元に再検討した笹生衛氏の『神と死者の考古学』(吉川弘文館)、現生人類がアフリカから日本列島にたどり着くまでの過程を大胆に想定した海部陽介氏の『日本人はどこから来たのか?』(文藝春秋)、仏像についてそれを製作した仏師から捉えなおした根立研介氏の『ほとけを造った人びと』(吉川弘文館)、古代国家の正史六国史についてそれぞれエピソードを交えながら紹介した遠藤慶太氏の『六国史』(中央公論新社)の4作品が選ばれました。



## 古代文化連続講座記録集『古代出雲ゼミナールⅢ』刊行

今回で三冊目となる古代出雲ゼミナールですが、昨年度東京・大阪・松江で実施してきたシンポジウム・講座から選りすぐってまとめました。今回は三部構成とし、特に2部・3部は、考古学を中心に古代出雲の様々な側面に言及した講演録となっています。

- 第1部／出雲国風土記と古事記・日本書紀  
三浦佑之・瀧音能之・森公章・丹羽野裕による講演・報告とディスカッションの記録
- 第2部／列島古代史のなかの出雲世界  
白石太一郎「古代出雲と邪馬台国」  
菊地 照夫「ヤマト王権と出雲玉作り」  
椿 真治「よみがえる最古の人物埴輪たち」
- 第3部／古代出雲の神と仏  
花谷 浩「風土記に書かれた『出雲』」  
松尾 充晶「古代出雲の祭祀世界」

古墳研究の大家である白石太一郎氏をはじめとして、いずれも出雲についての歴史像を持った研究者の講演録であり、それぞれを読みくらべてみるのも楽しみ方の一つかもしれません。ハーベスト出版から税込1,080円で一般販売されていますが、鳥根県文化財愛護



協会 (TEL0852-22-6612) でも実費頒布しています。また、歴博のミュージアムショップやお近くの書店、インターネット通販でも購入することができます。

# れきはくごよみ

## 2017年イベントスケジュール

小さなお子さまも  
お楽しみいただけます!



しまねっこも登場!

3/12  
日

### 開館10周年記念スペシャル 「れきはくであそぼ」

◎時間／10:00～15:00  
◎場所／古代出雲歴史博物館 講義室

紙芝居

■れきはく紙芝居(10周年スペシャルバージョン)  
歴博の見どころを、歌とダンスを交えて紹介!  
紙芝居のあとは、プレゼントの当たるクイズ  
大会もあるよ!

遊び

■れきはくちびっ子迷路  
歴博初登場! 段ボール迷路の中には「何か」が  
かくれているよ!  
■れきはくパズル  
10周年記念の新作パズルも登場!

工作

■勾玉の首かざりづくり  
紙とストローで、自分だけのオリジナル首かざ  
りをつくろう!  
■ピロピロ!ぐるぐる!おどるおもちゃづくり  
ストローを吹くと、オロチや電車がおどりだす  
よ!

スタンプ  
ラリー

■親子でチャレンジ! れきはくスタンプラリー  
館内を巡ってスタンプを集めて、限定缶バッジ  
をゲットしよう!

6月  
初旬

### 体験水田 古代米の田植え

出雲農林高校との連携事業として、生徒の皆  
様と一緒に古代米の田植え体験を行います。

10/8  
日

### 秋の体験学 「れきはく秋まつり」

みんなで来てね!



出雲農林高校の移  
動動物園や太鼓パ  
フォーマンス、農産  
加工品の販売ショッ  
プなど楽しい企画を  
たくさんご用意して  
います。

7/30  
日

### 夏の体験学 「れきはく夏まつり」



子供から大人  
まで楽しめる体  
験メニューを用  
意して、皆様の  
参加をお待ちし  
ています。

10月  
中旬

### 体験水田 古代米の稲刈り



出雲農林高校の生  
徒の皆様と、6月に  
植えたお米を古代の  
道具などを使って刈  
り取ります。さら  
にはで干しやお米の試  
食も行います。

9/9  
土

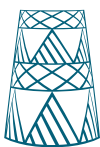
### れきはく観月会



風土記の庭で  
ちょっと早いお  
月見。秋の夜長  
をお楽しみくだ  
さい。

※日時や内容は変更になる場合があります。詳しくは内容が決まり次第、  
ホームページなどでお知らせします。

発行／平成29年2月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん